

実践目標③

自然との付き合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

災害の教訓を深く記憶にとどめ、今後の生き方、暮らし方に生かしていきます。
また、淡路島のもつ豊かな自然を社会的、経済的、スピリチュアルな視点から評価したうえで、人と自然の新たな共生空間の形成を目指します。

<行動指針例>

(人と自然)過去の教訓を生かし、ハードとソフトが一体となった防災・減災の地域づくりを促進します。など
(エネルギー・資源)エネルギー自給と自治を目指して地域内生産を促進します。など
(自然の営みと生業)自然の恵み(生態系サービス)を賢く使います。など

実践目標④

経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

経済、社会、環境の調和が取れた真の幸せ(豊かさ)が実感できる淡路島らしい暮らしを実現する「仕組み」をつくります。
ビジョンの実践過程とその成果を島内外に広く発信し、外部からの意見を取り入れ、次のステップに生かしていきます。

<行動指針例>

(学ぶ)経済、社会、環境の調和について、暮らしの中で意識し、学び、ともに考える機会を増やします。
(つくる)地域の自然や文化に適合し、環境に優しく、淡路島らしい暮らしを実現するための制度や仕組みをつくります。など
(発信する)ビジョンの取組をフォローアップし、実践過程や成果を国内外に発信します。

☆ビジョン実現のためのポイント☆

ビジョン実現のためには、以下のポイントが重要です。

- ①ビジョンの普及と共感
- ②あらゆる主体の参画
- ③行動や事業に応じた適切な協働と役割分担
- ④実現を支援する「仕組み」の構築
- ⑤的確なフォローアップ(評価、見直し等)



©2007兵庫県

☆目標の指標化による検証☆

人の主観的な満足度を指す「幸せ」を図るためには、「幸せ」を構成する「経済」「社会」「環境」の3つの要素の豊かさを図る指標が必要です。ただし、各要素は、人間生活の大前提となる「地球資源と環境容量」の制約のもとに成り立たなければなりません。

当面は、要素ごとに適切な複数の指標を選び、それぞれの指標の経年変化を観察することで地域社会の状態を把握し、総合指標である「幸せ指標」の設定を目指します。

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”～



淡路地域ビジョン委員会
(事務局 兵庫県淡路県民局公園島推進室ビジョン課)

〒656-0021 洲本市塩屋2-4-5
TEL: 0799-22-3541 (代表)
FAX: 0799-23-1250
E-mail: koenjima@pref.hyogo.lg.jp
ホームページ <http://www.awaji-vision.jp/>

24淡路@2-017A4

淡路地域ビジョン

概要版



淡路地域ビジョンとは…

地域ビジョンとは、地域に暮らす様々な人が共有し、その実現を目指そうとする地域の将来像です。
従来の行政主導型の「計画」ではなく、住民自らが描き、その実現を目指そうとする「淡路地域の将来像」です。住民、企業、行政等、淡路地域の全ての主体が共有する「地域の夢」です。

ビジョン策定から改訂までのあゆみ

平成13年2月に、「人と自然の豊かな調和を目指す環境立島『公園島淡路』」を目標として策定し、様々な取組を展開してきました。
しかしながら、10年経った今、経済・社会・環境などの面で、予測を超えた速度での変化がもたらした様々な課題に直面しています。
こういった時代潮流の変化を受けて、2年間かけて点検・見直しを行い、2040年頃を展望しつつ2025年を想定年次として、平成23年12月に改訂版を策定しました。

淡路地域ビジョンの改訂にあたって

今回の見直しにあたって、①グローバルな視点で淡路島の直面する課題を直視すること、②淡路島の歴史から見えてくる可能性を見据えること、③持続可能性をキーワードとして本当の幸せについて考えること、の3点に留意して見直しを行いました。
また、点検・見直しと時期を同じくして提案が行われた「あわじ環境未来島構想」と内容の整合性を図り、同構想をビジョン実現の強力なツールとして位置づけました。

淡路島を取り巻く環境の変化と直面する課題

世界的には、環境汚染や資源の枯渇、生物多様性の消失などの問題が生じ、国内に目を向けると、人口減少やコミュニティ機能の衰退による地域社会の弱体化が続いています。
また、淡路島内でも、第一次産業や地場産業の衰退が著しく、若年人口の島外流出が続いています。
農漁業の担い手不足による土地の荒廃やそれに伴う淡路らしい景観の喪失、人口減少に伴うコミュニティの維持困難、教育機関の規模縮小も生じています。

淡路島が持つ可能性

淡路島は、他地域にはない「国生み」の歴史を持っています。この混沌とした時代において未来を切り拓くヒントは、この淡路島の歴史と文化の中にあるはずで。
淡路島は古くから海上交通の要所であるとともに、朝廷へ食料を献上する“御食国(みけつくに)”として、重要な役割を果たしてきました。
さらに、自然とうまく共生した地域特性に合った高い技術をもって、その資源を活かした産業を生み出してきました。
淡路島は、農業社会の時代には人口扶養力の高い豊かな地域でしたが、工業化が進むにつれて、人口の減少、経済力の低下が始まりました。
しかし、大量生産社会が行き詰まりを見せる中で、淡路島の風土と文化が改めて脚光を浴びる可能性が出てきています。

淡路地域ビジョンの理念

理念1 命をつなぐ“持続可能な島”

「いのち」について、しっかり向き合うことのできるビジョンでありたいと願って、「命をつなぐ“持続可能な島”」を理念のひとつとしました。

「命をつなぐ」とは、世代を越えてつながっているという“縦のつながり”と生き物はすべてつながっているという“横のつながり”の二つの解釈ができるでしょう。この“縦、横”両方のつながりがなければ、地球上の生命は存在し得ないという命の成り立ちの原点に立ち返って、淡路島のビジョンを考えるべき時が来ています。

理念2 「経済」「社会」「環境」の調和がとれた新たな幸せ社会

戦後は、物的基盤をつくることに社会の重点が置かれてきましたが、経済的に先進国と肩を並べるようになった1970年頃からは、心の豊かさを重視する人が増えています。

私たちの幸福感は、大きく「経済」「社会」「環境」の3つで構成されています。本ビジョンでは、この3つの要素のバランスを見直し、真の“幸せ社会”について考えていきます。

～経済・淡路島の地域経済の強化～

経済のグローバル化が進む中、地方のあり方が問われています。このような状況において、3つの視点からの淡路島の経済戦略を提案します。

1 優位な産業のビジネスモデルをつくること

2 働き方の価値観を転換し、自分にあった生き方を楽しみながら起業し、あるいは、身の丈にあった技術でものづくりを行うこと

3 地域内循環経済を活性化させること

～社会・誰もが役割のある社会の形成～

近年の社会構造の中で、個人や家庭の地域からの「孤立」が浮き彫りになっています。このような背景を受けて、一人ひとりの存在価値を互いに見いだしながら居場所をつくること、それぞれの地域が「自助・共助・公助」を進めていくことが求められています。本ビジョンでは、誰もが役割のある社会の形成を提案します。

～環境・自然の恵みを活かした暮らし～

私たちは、日本人が本来持っていた自然観を見直し、自然の恵みを活用した小さな生業をつくり出し、自然の持つ癒しの力などを活かした暮らしを提案します。

理念3 環境立島“公園島淡路”の理念の継承と発展

「環境立島“公園島淡路”」とは、まず自然環境を守り、自然環境と調和した産業や経済活動が成り立っている中で、様々な人が交流し、さらに新しく創造的な文化や産業が生まれ出されていく地域像のことです。

人と自然が協働することで新たな関係を築く「環境立島“公園島淡路”」の理念は、環境問題が世界的な重要課題となっている現代においてこそ、いっそう輝きを増しています。本ビジョンでは、この理念の継承と発展を目指します。



淡路地域ビジョンの目標

本ビジョンの策定にあたり、3つの理念のもと、次の目標を掲げました。

環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～



実践目標と行動指針

さらに、この目標を実現していくための柱として、次の4つの実践目標を掲げました。

実践目標1 誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

地域における「参画と協働」を進め、淡路島の未来を担う人材を育てます。

それぞれが持つ「知恵」「技術」などを活かし、すべての人々に役割や居場所があり、「自助」「共助」「公助」のバランスがとれた島を目指します。

<行動指針例>

- (教育・文化) 精神的にも体力的にもたくましく、個性輝き、命のつながりを大切にする子どもたちを育てます。など
- (健康・福祉) 高齢者や障害者などの事情に対応し、男女の別なく、誰もが個人として尊重され、生きがいを持てる柔軟な就労機会や社会参加の機会を増やします。など
- (まちづくり・地域づくり) ボランティア活動、地域づくり活動を促進し、社会的企業を育成します。など

実践目標2 個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

淡路島の地域資源を活かし、地域内外との連携をとりながら、新たな価値観と豊かな発想で付加価値の高い産業を生み出していきます。

若者の就労機会を増やし、起業にかかる主体的な行動を支援します。

また、地域経済を活性化し、自立を目指します。

<行動指針例>

- (地域の経済循環) 物品やサービスの地産地消の取組を進め、地域経済の循環と産業の競争力向上を図ります。
- (既存産業の振興) 多様な形態の農漁業への就労や新規就業者の積極的な受け入れとともに、新しい農と食の人材を育成します。など
- (新産業の創造) 環境配慮型企業や農業関連企業を積極的に育成、誘致します。など

